

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 北須磨保育センター	代表者	多田 信男	法人・事業所の特徴	地域とのつながりが強い法人であり、地域からの様々な協力や支援を受け、理念に謳われている「地域の共生ケア」を目指している。その中で小規模多機能型居宅介護すこやか友が丘は、高齢になっても、独居になっても、日々安心して、明るく楽しく、元気に暮らせる個別の関わりに力を入れている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護すこやか友が丘	管理者	伊藤 雅幸		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	12人	0人	0人	1人	0人	6人	人	22人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員が交代で講師となり、内部研修を実施することで、考える力をつける。	職員が交代で、今年度は10回の研修ができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でできていないことが多く残念です。</li> <li>・利益追求で事業所展開するのであれば、地域住民にも理解してもらう努力がいると思う。</li> </ul>	研修することで、再確認できることがあるため、引き続き研修を実施する。
B. 事業所のしつらえ・環境	5S活動に取り組む（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）	比較的、取り組めたとと思うが、片付けた場所を申し送らず、知らない職員が探ることがあった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しゃべりながあります、家族が気軽に来て頂く事を願います。</li> <li>・居心地のいい、入りやすい事業所を目指して取り組んで下さい。</li> <li>・環境を整えるための5Sは自分に使える（仕事で）</li> </ul>	不要な物は処分し、引き続き5S活動に取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	地域行事の参加。保育センターや児童館との交流会。 職員と一緒に、しゃべりなのボランティア。	コロナ禍であり行事参加はできず。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で行事など参加できなく残念と思う。</li> <li>・相談があれば、すぐに事業所を紹介しています。</li> </ul>	コロナ禍で行事参加など困難と思われるが、出来る限り感染対策をし、参加・関わりができるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	本人が地域でどのように暮らしていたかを把握し、少しでもその暮らしが続けられるように取り組む。	コロナ禍で、地域に出向く事ができなかった。以前から行っていた喫茶店など、店員さんと連携をとったりしている方がいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を把握することが大切。</li> <li>・ずっと同じ事業所を利用するのが全てではない。</li> <li>・他の対応策の配慮も必要。</li> </ul>	以前の暮らし・生活習慣などの聞き取りをし、地域との関係を継続できるようにする。

E. 運営推進会議を活かした取組み	職員、利用者家族の会議への参加を依頼する。欠席の場合は意見・質問など聞き会議で発表する。	利用者家族は案内しているが、参加希望がなかった。職員参加は人間的に厳しく参加できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例発表は、考えさせられることがあり、自身も勉強になります。</li> <li>・この会議からは即効性のある意見は出にくいと思う。</li> </ul>	委員の方の意見や助言をまとめて会議で伝え対応等の検討をし実施できるようにする。
F. 事業所の 防災・災害対策	防災カーニバルの参加	コロナにより中止になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・災害対策は3階まであるので、年1回はする必要があります。マニュアルを作ることも大切です。</li> </ul>	マニュアルが古いため、作り替えます。今まで通り避難訓練は年2回実施します。